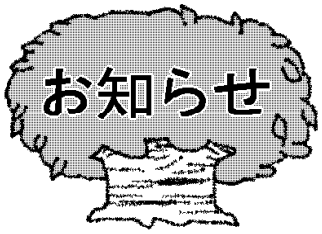
旭ヶ丘キリストの教会　ニュース



《今週の歩み》

３/15(日)聖日礼拝
/16(月)
/17(火)
/18(水)
/19(木)10:00聖研
/20(金)春分の日
/21(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》

①家族の救いのために
②礼拝に来れなかった人々のために
③主が教会学校の子供たちもお送り下さいますように

良書ハイライト

「一人でいること」

ボンヘッファ著　森野善右衛門訳「共に生きる生活」(新教出版社、2002) p.71

一人でいることのできない者は、交わり〔に入ること〕を用心しなさい。彼は、自分自身と交わりとを、ただ傷つけるだけである。神があなたを呼び給うた時、あなたはただ一人で神の前に立った。一人であなたはその召しに従わねばならなかった。一人であなたは自分の十字架を負い、戦い、祈らねばならなかった。そして一人であなたは死に、神に弁明するであろう。あなたは自分自身から逃れることはできない。なぜなら、神御自身があなたを選抜し給うたのだからである。もしあなたが一人でいることを望まないなら、それはあなたに対するキリストの召しを否定することであり、あなたは、召された者の交わりとは何の関わりも持つことはできない。「我々はみな、死を求められており、誰も他の人に代わって死にはしない。かえって各自は、自分で自分のために死と戦う。…そこで私はあなたと共にいないし、あなたは私と共にいない」(ルター)。

しかし、その逆の命題もまた真である――「交わりの中にいない者は、一人でいることを用心しなさい」。あなたは教会の中へと召し出されたのである。召しはあなたにのみ向けられているのではなく、あなたは、召された者の教会の中で、自分の十字架を負い、戦い、祈るのである。あなたは、一人ではない。たとい死の時においても、あなたは一人ではない。最後の裁きの日に、あなたはイエス・キリストの大きな教会の一つの肢となるであろう。あなたが兄弟の交わりを軽蔑するなら、あなたはイエス・キリストの召しを否定するのであり、そうすれば、あなたが一人でいることは、あなたにとってわざわいなこととなるであろう。「私が死ななければならないなら、死において私は一人ではない。私が苦しむなら、彼ら(教会)が私と共に苦しむのである」(ルター)。